

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル素材論	繊維・糸・織・編などの種類と性質を系統的に理解させ、染色や加工など関連教科の礎となり、またテキスタイル表現としての応用展開が図れるよう基本的な知識と技術を得ることを教育目標とする	1・通年	60	2	○			○		○		
○			染色演習	・ 実験実習及びレポート製作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。 ・ 後半では自由制作を通じて、素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総理解を図る。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			ウィービング基礎演習	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じて、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。 前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	1・通年	120	4		○		○			○	
○			テキスタイルクリエイションⅠ	・ テキスタイル製作において必要な基礎カリキュラムの充実をはかる。 ・ 作品製作を通して、「基礎知識」「基礎技術」「基礎デザイン」が習得できるようにする。	1・通年	60	2			○	○			○	
○			自由研究Ⅰ	・ 「自主性」「独創性」「表現力」と共に「協調性」の向上を目的とする。 自由研究ならではの講義および実習を導入する。研究内容設定、研究調査、グループ企画・制作、コラボレーション授業、コンテスト活動、ポートフォリオ制作、コラボレーション企画、工場・企業訪問などから比重の大きい項目で構成する。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服飾造形Ⅰ	・ 服飾造形としての一般知識、原型の作図方法、縫製の基礎を理解させる。 ・ 衣服製作を通して、衣服の構造を理解し、ファッション衣料としてのテキスタイルに関連させ指導する。	1・通年	120	4			○	○			○	
○			ドレーピングⅠ	・ 立体裁断の基本的な考え方、基礎的技術・知識を理解させる。 ・ 布目の重要性・ボディとパターンの関係、ドラフティングの仕方、平面から立体への布のとりえ方、視覚訓練の重要性	1・通年	60	2			○	○			○	
○			ニット基礎	ニットの基礎知識を理解し、棒針編み、かぎ針編み、家庭用編み機の基礎技術や、ニットテキスタイル研究の基礎の技術を習得する。	1・後期	30	1	△	○		○			○	

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			色 彩 論 ・ 演 習 I	テキスタイルデザインの中で色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・ 通年	60	2	○	△		○		○		
○			デッサン	視点を換え、ものを見ること、描く事の意味を再認識する事とあわせ、基本的描写能力・表現能力の向上を目的とする。また平面にとどまらない各自の、多彩な表現に結びつくような方向性も考慮する。	1・ 前期	30	1			○	○			○	
○			ファッ シ ョ ン デ ザ イ ン 画 I	人体と衣服の関連を把握し、デザインの構造線が正確に描くことが出来るよう基礎テクニックを中心に創造力を高める。 1. 8頭身プロポーション 2. ポーズ 3. 着装表現 4. アイテム図 5. 彩色・画材表現 6. 素材表現 7. デザイン発想 8. 修了制作	1・ 通年	60	2			○	○			○	
○			ファッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス 概 論	ファッションビジネスに必要とされるファッションビジネスの特性から、変遷、現状、産業構造、業態、職種、流通、マーケティング、マーチャダイジング、計数、販売にいたる基礎知識を学ぶ。	1・ 前期	30	1	○			○		○		
○			服飾手芸	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にしてテキスタイル、服飾、小物造形などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・ 通年	60	2			○	○		○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・ 通年	60	2	○			○		○		
○			グラ フ ィ ッ ク ワ ー ク	Illustrator初心者を対象に、ソフトの基本操作を習得し、ペンツールの描画方法、連続柄の作成方法、回転・反転ツール等の操作を身につける。Photoshopの基本操作を習得し、2年生からのデジタルプリントのデータを作成するための基本を身につける。	1・ 通年	60	2		○		○		○		

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			キャリア開発Ⅰ	学生が就職を志望する先に内定するために必要な「就職力」を講義＋実習を通して身につけさせる。	1・後期	30	1		○		○			○	
○			特別講義Ⅰ	・ 通常カリキュラムの範囲外におけるテキスタイルに関連する情報や知識を学ぶ。	1・通年	60	2	○			○			○	
○			校外研修Ⅰ	・ 学外にて多くのものを見聞することにより視野を広げ、より多くの専門的な知識を得ると共に社会人としての不可欠な教養とマナーをはぐくむ。	1・通年	30	1			○		○	○		
学年合計						18 科目	1080単位時間( 36単位)								

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			テキスタイル論	繊維、糸、組織、染色、加工などの知識の更なる充実を図る。また、それらの視点に基づいて各自が既製の素材観察やオリジナルの糸や布の試作により、テキスタイル製作に応用、展開しうる発想力、思考力を養うことを目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			テキスタイルプランニング	ファッションビジネス業界において、適切なテキスタイル企画のために、様々な情報を踏まえて、リアルプランニング術を習得する。国内産地の最新情報の提供、最新素材の見聞、コストやスケジュールなど踏まえ、シミュレーション企画の中でトレーニングする。	2・後期	30	1			○	○			○	
	○		染色演習 (選択)	実験実習・レポート製作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。 素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総合理解を図る。	2・通年	120	4		○		○		○		
○			プリントデザイン演習Ⅰ	手捺染によるスクリーンプリントとパソコンを使用したデジタルプリントのそれぞれの仕組みと特徴を把握し、繊維業界に通じる実践的な技術を修得することを目指す。前期はスクリーンプリント・デジタルプリントともに、一連の演習で基礎技術を身につける。後期のスクリーンプリントは応用的なプリント・加工法を用い、デジタルプリントはパソコンの操作技術を向上させ、それぞれの技法で制作物の完成度を上げる。	2・通年	120	4		○		○		○		
	○		ウィービング基礎演習 (選択)	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じて、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。 前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	2・通年	120	4		○		○			○	
○			ウィービングデザイン演習Ⅰ	1年次の基礎実習により織物の構造を理解した上で、素材、糸の種類、織組織などのさまざまな条件が表面効果、風合いの効果、デザインにつながることを理解させる。また、後期にはこれまでに学んだ技法を踏まえて、製品（アパレル、インテリア、雑貨など）の材料となる織物作品の制作を行い新たな織物の可能性を追求する。	2・通年	120	4		○		○		○		

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			テキスタイル図案Ⅰ	前期は実技課題を通じてテキスタイル図案の基礎である送り（リピート）とは何かを学び、同時に制作過程において画材の取り扱い方・アイデアを表現するための技術を習得する。 後期はテーマ別の図案作成により季節・ターゲット・用途などに合わせたデザインを考え表現する事で実務に生かせる能力を身につける。	2・通年	60	2			○	○			○	
○			テキスタイルクリエイションⅡ	デザインやアイデアを実現する為の技術を個々が学び、実験し、実際に作り上げる中で実用性のある知識や技術を習得する。自分をスタート地点とした質の高い物作りをすることによる自信、経験の構築により、より発展した物作りへと繋げる。	2・通年	120	4			○	○			○	○
	○		自由研究Ⅱ(選択)	「自主性」「独創性」「表現力」と共に「協調性」の工場を目的とする。 自由研究ならではの講義および実習を導入する。研究内容設定、研究調査、グループ企画・制作、コラボレーション授業、コンテスト活動、ポートフォリオ制作、コラボレーション企画、工場・企業訪問などから比重の大きい項目で構成する。	2・通年	60	2			○	○			○	
	○		服飾造形Ⅱ(選択)	2年次では、パンツとワンピースを制作しその構造を理解する。 作図理論・パターン展開方法を把握し、基本的な縫製技術を習得する。 素材は各自が制作したオリジナル素材を全体的または部分的に使用することを条件とする。 前期：パンツ 後期：ワンピース	2・通年	120	4			○	○			○	
	○		ドレーピングⅡ(選択)	スカートとワンピースの立体裁断を通して、服作りの基本理論と技術、バランスを理解する。 応用表現として立体裁断で制作したパターンを展開し、オリジナルテキスタイルでの作品を制作する。	2・通年	60	2			○	○			○	
○			色彩論・演習Ⅱ	テキスタイルにおける色彩の基礎と応用を座学と実習をとおして学ぶと共に、アパレルにおける色彩計画の実際を就職にも使えるツールを製作しながら、色彩計画をプラン、実践出来る人材を目指す。	2・通年	60	2	○	△		○				○
○			ファッションデザイン画Ⅱ	ファッションデザイン画の基礎から商品企画提案をデザイン画にしてファイル化とプレゼンテーションすること。 画力育成には自分に合った表現を自ら見つけ出そうとする力を養い、テキスタイルデザインにおける独自の画風を見つける。	2・通年	60	2			○	○				○
○			ファッションマーケティング	ファッションマーケティングへの理解を深める。 マーケットリサーチを行うことで、情報収集・分析・活用を身につけ、感性をテキスタイル商品に具体的に表現する能力を育成する。	2・前期	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			染 織 文 化 論 Ⅰ	日本の染織文化について年代を追って歴史的に解説する。また、日本に染織文化で影響を及ぼした中国や東南アジアなどの東洋の染織文化や西洋の染織文化のつながりや違いについても触れていき、テキスタイルデザインに応用できるようになることを目指す。	2・通年	60	2	○			○			○	
○			キ ャ リ ア 開 発 Ⅱ	学生が就職を志望する先に内定するために必要な「就職力」を講義＋実習を通して身につけさせる。 職業観・言葉遣い・電話・Eメール・自己分析・履歴書・エントリーシート・面接・グループディスカッション 作品プレゼンテーション	2・後期	30	1			○	○			○	
○			特別講義Ⅱ	物作りをする上で有意義な情報や技法を学びとり、個々の創作活動に発展性を持たせる。	2・通年	30	1	○			○			○	
○			校外研修Ⅱ	テキスタイル産地の企業見学および古美術研修を行う。企業見学は企業での実務、特に生地や製品の生産工程を見学し産地や企業の特徴を学ぶ。古美術研修は国宝や文化財などの歴史的価値にふれ見聞を広める。	2・通年	30	1			○		○	○		
○			企 業 ・ 学 内 研修	研修先企業で業務の一端を経験することにより、業界の仕事内容を認識するとともに、社会人としてのマナーを身につける。就職意識を高め就職活動の参考要素とする。 研修先業種：繊維総合商社、繊維製品総合メーカー、織物工場、染色工場 など	2・後期	60	2			○		○		○	
学年合計			19科目			1110単位時間(			37単位)						

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			テキスタイルマーチャン ダイジング	前期の教育目標は2年次までに習得した知識内容又レベルの自己判断をした上で、テキスタイル知識の補足的復習。 後期は前期の内容を踏まえて、シーズンテキスタイル企画、又アイテム企画等への応用シミュレーションを学習し、各自のオリジナル性を強調させた、ファッションテキスタイルマーチャンダイジング手法を習得する事を目標とする。	3・通年	60	2			○	○			○	
○			プリントデザイン演習Ⅱ	プリントデザインの流れは、その時の社会状況を反映し、時には時代のトレンドをリードしている。 ファッションのためのテキスタイルとして、デザインの知識や技法、思想を知ることと各自のプリントデザインの布地製作に活かしていくことを目的とする。	3・前期	120	4		○		○			○	
○			ウィービングデザイン演習Ⅱ	1、2年次の「ウィービング基礎演習」「ウィービングデザイン演習Ⅰ」で学んだ織物構造、デザインの基礎を踏まえ、アパレル製品の素材として織物を大量生産する立場から捉えられるよう指導する。同時に新たな織物デザインの可能性をさまざまな面から追求する。	3・前期	120	4		○		○			○	
○			テキスタイル図案Ⅱ	2年時の演習の上にさらに独自の発想を表現できるレベルに技術を向上させ、テーマ別にターゲット・季節など使用するシーンをこまかく設定した図案を作成することで、繊維業界における図案の実際を学ぶ。 プリント演習・服飾造形等他の授業と連携し図案作成からプリント、縫製まで服作りの流れを習得する。	3・通年	60	2	○		△	○				○
○			テキスタイルクリエイションⅢ	1・2次で学んだテキスタイルに関する、染色法、プリント加工、ウィービングなどの知識や技法を活かし、卒業創作研究の授業への関連も視野に入れ、各自がそれぞれテーマを設定し企画からテキスタイル素材制作までを行う。 制作物の発表の流れとして、企画プレゼンからサンプルの解説、完成ポートフォリオと実物作品による発表と講評とする。	3・後期	120	4			○	○			○	
○			自由研究Ⅲ	各自が卒業制作、就職活動に向けて専門性を絞り込み、研究テーマを決めて情報収集、ポートフォリオなどの作成の時間にあてる。また、各コンテスト活動、コラボレーションにも積極的に参加実習することを目的とする。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			服飾造形Ⅲ	3年次では、ジャケットとコートを制作し、各アイテムの構造を理解する。 応用的なアイテム制作をすることで、発想力や技術力の強化を図る。 素材は、各自が制作したオリジナル素材を使用することを条件とする。	3・通年	120	4			○	○			○	

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ドレーピングⅢ	平面作図では表現しづらいフォルムを立体裁断で型出しすることにより、そのテクニックを習得するとともに平面作図との比較材料にする。立体を創り出す際に広い視点で形をとらえる訓練をする。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅲ	卒業学年ではデザインの現場（社会）で求められる業務内容を課題内容として、プロへの準備段階と考える。 作品レベルでは個性を尊重するが思いつきの内容ではなく第三者の質問に丁寧な説明が出来ることを目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	
○			染織文化論Ⅱ	古代から現代まで時代背景に基づきながら、西洋染織の変遷と特徴について解説します。特に人々との関わりから生じる模様の由来や象徴性について理解を深めるとともに、過去の染織から新たなデザイン発想へと展開させ、あらゆる分野のテキスタイルに応用できる力を身につけることを目標とする。	3・通年	60	2	○			○			○	
○			アパレル品質論	アパレル製品の企画、設計、生産、流通における品質管理の知識を習得させるために以下の①～③について講義、演習、実習、見学を通して理解させる。 ①素材の特性を把握する為の物性試験や製品の実用性能を管理するための各種試験方法、評価法、基準値 ②アパレル製品の取り扱い ③アパレル製品に関する法規制（表示関連、安全性関連）や規格	3・前期	30	1	○	△	△	○	○	○		
○			ピンワーク	Ⅰ. ピンワークを演習する事によって、テキスタイル作品をさまざまな手法で立体表現し、基礎的な空間演出を習得する。 Ⅱ. 布地の表現手法、素材感を演習によって経験し、制作の発想、企画、立案、制作までの計画性と実現力を養う。 Ⅲ. ポートフォリオ制作：授業での演習作品、をポートフォリオにまとめ、今後の作品発表に欠かせないプレゼンテーション力を身につける。	3・通年	60	2	○	△		○			○	
○			特別講義Ⅲ	専門性の向上をはかる上で、科の特性に関連する有意義な情報や技法を学びとり、個々の創作活動に発展性を持たせることを目的とする。	3・通年	30	1	○			○			○	



授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	インターン シップ	キャリア支援室との連携協力のもと各自の就職活動の一環として、企業や業種の現場での研修を行い仕事の内容を認識するとともに就職意識を高めることを目的とする。 (その際は企業側からの提案、必要とされる研修内容に沿い、その先の就職に繋げられる研修となることを理想とする)	3・後期	30	1			○		○		○	
○			卒業研究・ 創作	ファッションテキスタイル科の最終課題として、ウィービングデザイン演習・プリントデザイン・テキスタイルクリエーションの授業と連動し、年度末に予定の卒業制作ショー・卒業制作展示に合わせた発表を視野に入れた、テキスタイル企画・アパレルデザイン企画・実物制作までを行い、卒業にあたっての成果発表とする。	3・後期	120	4			○	○		○		
学年合計			15科目			1050単位時間 ( 35単位)									
合計			52科目			3240単位時間 ( 108単位)									

卒業要件及び履修方法								授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること								1 学年の学期区分	前期・後期
								1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。